



スプレーギク新品種 「スプレー愛知夏2号」と「アイセイカーラ」を開発 (令和2年9月品種登録出願公表)

本県のスプレーギク生産は全国第1位で、主な産地は田原市、豊川市です。スプレーギクには、主に7月から9月にかけて出荷する夏秋系品種と、10月から6月にかけて出荷する秋系品種があります。

「スプレー愛知夏2号」は花色がピンクの夏秋系品種で、夏季高温期においても、美しい花の色や形を長く保ち、暑さによる開花の遅れが少ないなど、栽培し易く、安

定した出荷が可能です。

「アイセイカーラ」は、花色がピンクの秋系品種で、美しい花の姿に加え、キク矮化病に極めて強く、本病の感染、発病を心配すること無く栽培することができます。

スプレーギク周年出荷における、ピンク花色の主力品種として、この2品種の普及が期待されます。

(東三河農業研究所)

「アイセイカーラ」はイノチオ精興園(株)との共同研究により開発しました。



液状ビール酵母配合飼料でおいしい豚肉生産！

液状ビール酵母の栄養成分(%)			発育及び肉質成績		
調査項目	原物中	乾物中	調査項目	液状ビール酵母区	慣行区
水分	85.70	-	飼料摂取量(kg/日)	13.0	13.3
粗タンパク	8.36	58.46	一日増体重(g)	985.4	956.3
粗脂肪	0.60	4.20	ドリップロス ¹⁾ (%)	6.7	7.2
粗繊維	0.08	0.56	脂肪融点 ²⁾ (℃)	41.0	38.1
粗灰分	1.30	9.09			
無窒素可溶物	3.96	27.69			
アルコール ¹⁾	4.30	-			

注 ¹⁾ 水分中の濃度 引用:日豚会誌56巻2号(一部改変)

注 ¹⁾冷蔵中に失われる肉汁の割合 ²⁾豚肉周囲の脂肪の溶ける温度



液状ビール酵母の性状

液状ビール酵母配合飼料の給餌状況

食品製造副産物の利用促進のため、ビールの製造過程で排出される液状ビール酵母について肥育豚の飼料として活用できるか検討しました。

液状ビール酵母は、成分中のタンパク含量が高いことが特徴ですが、アルコール分が高く、飼料摂取量や生体、生産物への悪影響が懸念されました。そこで、液状ビール酵母を飼料に15%配合して給与したところ、嗜好性も問題なく、発育

及び肉質ともに慣行飼料と同等の成績が得られました。

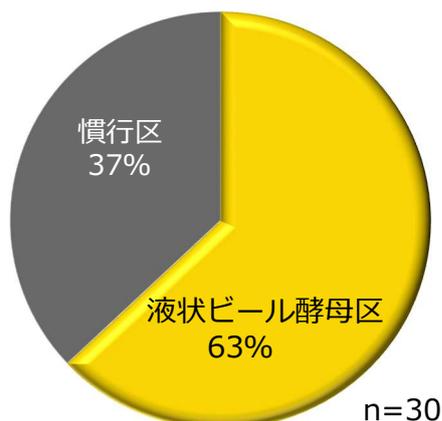
豚肉を鉄板で焼き、食べ比べを実施した食味試験においては、液状ビール酵母を給与した豚肉の方が好ましいとする人が多い結果となりました。

今後、食品製造副産物の利用促進が進み、飼料自給率の向上に繋がることが期待されます。

(畜産研究部)

質問:

あなたはどちらの豚肉がお好み？

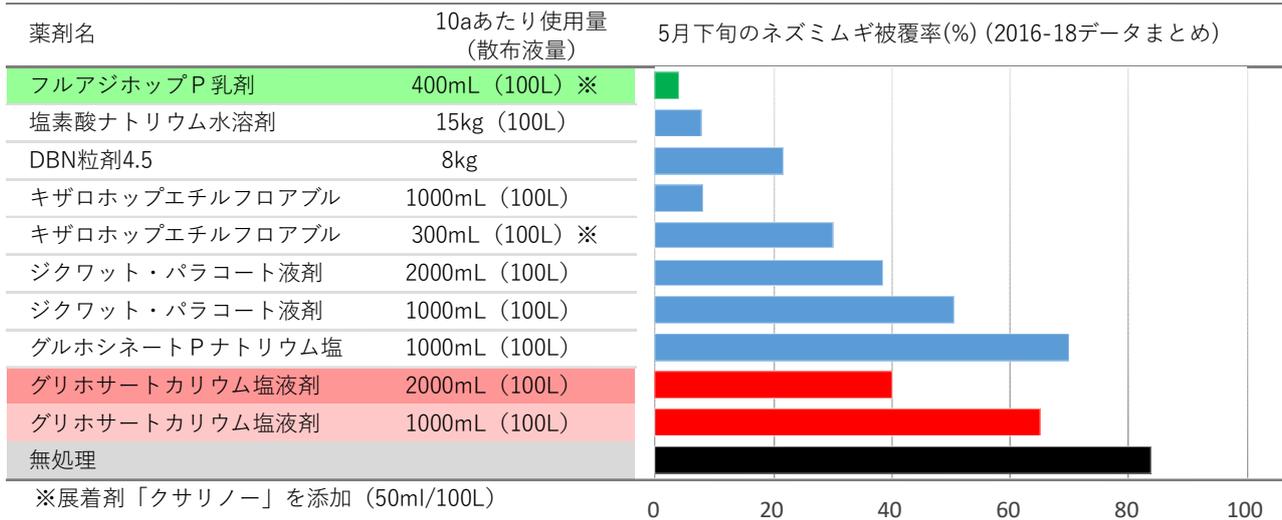


焼き肉調理した際の食味成績



水田畦畔における難防除雑草 グリホサート抵抗性ネズミムギの防除法を開発

供試薬剤の使用量とネズミムギ防除効果



フルアジホップP乳剤を処理した水田畦畔（左）と無処理の水田畦畔（右） 2017年5月18日撮影



フルアジホップP乳剤処理時期の違いによるネズミムギ防除効果

近年、除草剤のひとつであるグリホサート剤を散布しても枯れないネズミムギが、西三河地域の水田畦畔を中心に拡大し、雑草管理労力の増大やほ場内への侵入により作物生育に悪影響を及ぼしています。そこで、水田畦畔雑草の省力管理やほ場内への侵入防止のため、水田畦畔におけるグリホサート抵抗性ネズミムギの防除法の開発に取り組みました。

水田畦畔が適用場所として農薬登録のある除草剤のうち、展着剤を加用したフルアジホップP乳剤が最も高い効果を示しました。処理時期は、ネズミムギの草丈が30cmに達しない1月中旬又は2月中旬が効果的でした。本剤を1月中旬から2月中旬までの間に1回処理することで、グリホサート抵抗性ネズミムギを効果的に防除することができます。(作物研究部)

本研究は、公益財団法人日本植物調節剤研究協会からの受託研究で実施しました。

研究トピックス

コショウラン小苗へのBA処理は 品質と夏季の日持ち性が低下

コショウランの苗にベンジルアミノプリン (BA) 処理すると花数が増加します。3.5号ポット苗でのBA処理は、無処理と比較して花の大きさは同等、夏季高温期の日持ち性は向上しました。一方、2.5号ポット苗ではともに劣りました。小さい苗でBA処理し花数を増加させると、品質、日持ちが低下する可能性が示唆されました。

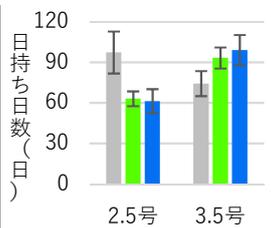
(園芸研究部)



無処理 3回処理 5回処理

2.5号ポット苗の比較

BA処理回数が多いほど花数は増加するが、花の萎れ(赤丸)の発生は早くなった



日持ち性の比較

※日持ち調査期間：2019/6/11~11/11
調査室は無冷房で、7~9月の平均気温は28℃

本研究は「戦略的プロジェクト研究推進事業」で実施しました。

高度環境制御施設でのトマト栽培試験を開始しました

東三河農業研究所では、本年3月に地方創生拠点整備交付金を活用して施設面積320㎡(間口8m×奥行20m、2連棟)高軒高の「あいち型植物工場」トマト研究施設を整備しました。8月下旬にトマトを定植し、統合環境制御機器による環境制御下で、ヤシ殻培地と袋培地を用いた養液栽培試験を実施しています。窒素過多を抑制するための窒素制御技術を中心に収量・品質向上を目指します。

(東三河農業研究所)



施設外観



施設内部

オートトラクタの作業精度・省力性を確認

水稲不耕起V溝直播栽培における耕起・整地・播種の3作業を自動運転と経験の浅い作業者の手動運転で行い、作業時間や精度を比較しました。自動運転は作業時間が短縮され、播種精度も高くなることが確認できました。

(作物研究部)

作業時間の比較

作業工程	自動	手動
	秒/10a ¹⁾	秒/10a ¹⁾
耕起(スタフルカルチ)	636	722
鎮圧(パワーハロー)	689	677
播種(V直)	573	679
合計	1898	2078

1)直進100m+180°旋回に要する時間から算出



オートトラクタ



自動



手動

播種精度の違い

本研究は「新稲作研究会委託試験」で実施中です。

ブドウ新品種「グロースクローネ」は 短梢せん定に適性あり

「グロースクローネ」(農研機構育成)は着色に優れる黒色系の極大粒品種です。

この品種に作業効率が良い短梢せん定を実施した結果、長梢せん定より発芽率が高く、1新梢当たりの花穂数、花穂の大きさも優れました。また、果房重、粒数や品質など収穫果房に差は見られませんでした。このことから、本品種は短梢せん定に対する適性があることが示されました。

(園芸研究部)



「グロースクローネ」の果実(左) 着果状況(右)